

長田秀雄 小説家、劇作家、小説家。明治十八年五月十二日東京生れ、昭和二十四年五月五日歿（六五—一九四九）。號赤髮鬼、長髮將軍。明治大學中退。明治二十七年雜誌『文庫』同人。翌年新詩社同人と、四十二年北原白秋、木下天太郎、吉井勇等と共に脱退して『パ』の會を興じ、翌年『屋上庭園』創刊。大正七年藝術座脚本部員、昭和九年新協劇團幹事。作家長田幹彦の兄。

著書 『戯曲』、『飢渴』（大正五年八月一日日東堂）、『世話狂言の研究』（合著・古劇研究会編、大正五年十一月、二十四日大政堂書房。再刊。七年十一月十七日近代田書店出版部）、『戯曲』、『牡丹燈籠』（大正六年八月二十五日春陽堂『戯曲選集』）、『人間集』（合著、大正八年十一月、二十日新潮社）、『聲』（大正九年四月十二日天祐社）、『明けがた』（大正九年十一月十日日本演藝合資會社出版部）、『蟻のお國』（大正十年五月五日實業之日本社）、『飢渴』（大正十年六月五日新潮社『現代脚本叢書』）、『人佛照眼』（大正十年十月六日新潮社）、『戯曲集』、『愛憎篇』（大正十一年二月十一日改造社）、『牡丹燈籠』（大正十一年七月十四日新潮社『現代脚本叢書』）、『新劇名作集』（合著・文學研究會編、大正十二年八月十五日芳文堂）、『亡き妻を哭く』（大正十二年九月、二十一日聚英館）

『現代戯曲全集』第十卷―長田秀

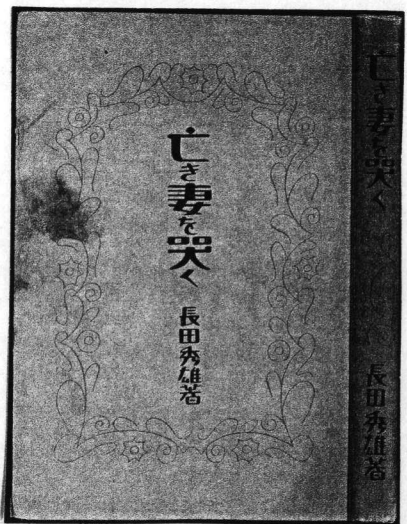
雄』（大正十四年

一月、二十一日國民

圖書株式會社）



『石山野城記』（大正十五年二月一



十『白春陽堂「現代戯曲選集」』、『猫眼石のピン』(大正十五年九月十日白寶文館)、『日本文藝講座・第七』(二卷「明治時代中編」)(合著、昭和八年九月八日新潮社)、『昭和血士録』(昭和九年五月十日春秋社。異版・五月愛知・新愛知新聞社)、『大佛開眼』(昭和十五年七月十日高田書院)、『新劇の黎明』(昭和十六年九月二十日ぐらうあ)、『源』(昭和十八年七月二十日平二國志)、(昭和十八年七月二十日今日の問題社「長篇歴史小説」)、『わが若き日』(合著・栗本昭編、昭和十八年八月二十日東京講演會出版部)、『大佛開眼』(昭和十七年九月二十日角川書店「角川文庫」)等。

